

第 85 回 沖縄小児科学会 ランチョンセミナー

沖縄県における乳児股関節健診と先天性股関節脱臼診断遅延の状況 —リスク因子による新たな乳児股関節健診の必要性と問題点—

沖縄県立沖縄県立南部医療センター・こども医療センター小児整形外科 金城 健

近年、発育性股関節形成不全(以下 DDH)の診断遅延症例が散見され問題となっている。当科ではこれまで県内の DDH 診断遅延を調査し、健診体制の見直しと再構築の必要性を学会で報告してきた。問題点は身体所見だけでスクリーニングされ、6 ヶ月以降に診断される診断遅延が多いことであつた。2016 年度より沖縄でも学会推奨のリスク因子による乳児股関節健診が開始となったが、家族歴や骨盤位の時期などの解釈に混乱をきたしている現状にある。また二次検診受け入れ側の問題点は二次検診体制で、沖縄県では超音波による二次検診のマンパワー不足が明らかである。当院では解決策として超音波検査士の活用を試み、2014 年から乳児股関節エコーセミナーに派遣し人材育成に努めている。また同年より県立宮古病院で施行された乳児股関節エコー画像をネット経由で転送し、筆者が読影をする遠隔読影システムを構築して二次検診体制の整備に努めている。継続的なシステムにするために人的資源の確保と通信手段を含めたハード面の整備が必要である。